

TSD122 シリーズ ストロボスコープ



TSD122 ストロボスコープは、視覚誘発反応アプリケーションで使用します。インタフェースには HLT100C / UIM100C または STM100C を使用します。ストロボスコープはバッテリーを内蔵しており、360,000 回のフラッシュを行えます。ユニットは毎分 0～最大 12,000 回のフラッシュを行え、MP システムやその他の機器と接続するための外部 TTL 同期とトリガー機能を備えています。

HLT100C と接続する際は、CBL122 (RJ11 と 3.5mm フォンジャックのアダプタ) ケーブルを介して接続します。

TSD122 はまた、外部トリガーブロック (UIM100C の背面) を介して、MP システムへトリガーを送ることも可能です。

TSD122A ストロボスコープ 120V/60Hz

BSL または MP36R ユニットと一緒に TSD122A ストロボスコープを使用するには、TSD122C (BSLCBL5 を含む) を注文してください；設定に関しては BSL PRO Lesson H22 視覚誘発電位を参照してください。

TSD122C ストロボスコープ 120V/60Hz

TSD122A と BSLCBL5 の構成です。

TSD122 の仕様

ディスプレイ：	デジタル LCD
バッテリー：	充電式電池を内蔵
バッテリー寿命：	毎秒 100 ストロボで 60 時間 (電池のみで 360,000 ストロボ)
フラッシュ継続時間：	30 μ 秒
フラッシュエネルギー：	180mJ
外部 TTL：	同期/トリガー
重量：	1.1kg

本体寸法： 9.3cm（幅）×9cm（高さ）×23cm（長さ）
発光部： 12cm（直径）
ハンドル： 10.8cm（長さ）
I/Oポート： TTL（同期入力/出力）3.5mm フォンジャック
付属ケーブル： CBL102、CBL122、及びCBL106 または BSLCBL5
インタフェース： HLT100C、UIM100C または MP36R、STM100C（出力のみ）